

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和6年12月2日
タイトル	令和6年度ひろしま水土里ネット女性の会研修 in ふくやま
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和6年11月14日（木）水土里ネット福山（福山市土地改良区）において「令和6年度ひろしま水土里ネット女性の会研修 in ふくやま」が開催されました。

ひろしま水土里ネット女性の会は、広島県内の水土里ネットの運営や活動に携わる女性とその活躍の場を広げることや農業農村整備に関わる人々が性別年齢を問わず自らの能力を発揮し、協力し合い、誰もが活躍できる環境作りに取り組むことを目的として設立されました。

今回初めて、ひろしま水土里ネット女性の会で研修を開催することとなり、広島県内各地から37名が参加し講演、意見交換、現地視察を行いました。

講演では、安芸高田市の原山土地改良区理事の田島あゆみ氏より「安芸高田市高宮町原山地区と酪農について」と安芸高田市高宮町すだれ土地改良区理事で(株)Rev0代表取締役社長兼(株)ハラダファーム代表取締役の本多正樹氏より「Jクレジットに関する取組について」を演題に講演していただきました。

田島理事は、ほ場整備事業が施行された原山地区へ移住し子育てをしながら酪農をしておられ、飼料価格や燃料費の上昇や子牛販売価格の下落により酪農の経営が悪化している状況や牛乳余りとバター不足になる構造をお話いただき、興味深くお聞きしました。

本多理事は、安芸高田市で60haの水田栽培を中心に農業法人を運営されており、地域の新規就農者を増やしていくひとつの手段として農業の環境価値化で新たな収入源を作る(株)Rev0を創業されました。

水稻栽培の中干しを延長することで土壌からのメタンガスの排出抑制によりJクレジットの発行が可能となり、温室効果ガス削減とカーボンクレジット創出による生産者の利益という環境と利益を両立する取組についてお聞きしました。中干し延長のリスクなど課題はあるものの夢のある大変興味深いお話でした。



広島県内の様々な立場で農業に携わる者が集まりました！

続いて5つのグループに分かれて意見交換をしました。生産者の取り組みや広島県内の農作物の栽培・販売の状況、土地改良区の運営事務について、さまざまな立場の方と意見交換できました。

参加された土地改良区職員の方から「他の土地改良区と交流する場が今までなかった。水利形態が違ってても賦課徴収など共通する課題もある。意見を聞いて参考になった。参加してよかった。」と感想を聞きました。

午後からは、水土里ネット福山が施行した「農地耕作条件改善事業箕島地区」とその地区内で洋蘭栽培をしておられる「小林洋蘭」の現地視察をしました。

箕島地区は、福山市箕島町釣ヶ端新開にあり明治年間の干拓地で昭和38年度に農業構造改善事業により農地造成を施行した地域で、現在は市街化区域に囲まれた農業振興地域として都市近郊農業を展開しています。

受益面積46.6haは、芦田川から取水する七社頭首工幹線水路から揚水機によりパイプラインで配水する畑地です。

老朽化により基幹送水管（パイプライン）の度重なる破損や農業用排水路が土水路のため維持管理に苦慮していたことから、水土里ネット福山が事業主体となり平成28年度から令和4年度に総事業費250,000千円の農地耕作条件改善事業を施行し、延長4.2kmの土水路を三面コンクリート張へ整備、延長470mの基幹送水管（パイプライン）の敷設替、送水量確保のため圧力タンクの更新を実施しました。



水土里ネット福山 杉原郁充常務理事より事業説明をし、特産物のハウレン草をプレゼント

続いて、水土里ネット福山の小林政夫総代が代表を務められる小林洋蘭へ移動しました。小林洋蘭はご家族で経営しておられ、奥様の志穂美さんは、令和5年に開催された水土里ネット男女共同参画推進大会へ生産者として参加していただいております。今回の視察をお引き受けくださいました。

小林洋蘭は、ハウスで胡蝶蘭などの洋蘭を栽培しておられ、一年を通して一定の温度を保つ必要があるため、夏は冷房、冬は暖房で温度調整をしていることから、電気代や燃料費の高騰が大きな負担になっていることなどを話してくださいました。



栽培方法なども詳しく説明



可憐に咲く胡蝶蘭にうっとり♡

今回のひろしま水土里ネット女性の会の研修では開催地をお引き受けし、大変貴重な経験をする事ができました。今回の講演や意見交換などの経験を今後の土地改良区運営に活かしていきたいと思っております。

水土里ネット福山は21世紀土地改良区創造運動の一環として、様々な活動を「水土里レポート」にして継続的に投稿しております。